

授業科目名	基礎法特論（法史学Ⅰ）	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目／教科に関する科目（地歴）					
サブタイトル	日本古代・中世の法と社会	担当者	三田 奈穂			
講義概要	<p>【概要】 本講義では、飛鳥時代から室町時代にかけての日本の「法」の歴史を概観しながら、「法とは何か」ということについて考察します。さまざまな法律が制定され、直接あるいは間接的に法と接する機会が多くなった現代社会において、その「ルーツ」について考えることはとても大切なことです。講義では、古代・中世の法がどのようなものを学びながら、現代につながる法の根源を考えてもらいます。</p> <p>【到達目標】 日本の古代そして中世の法と社会を学ぶなかで、①「法」は、時代や社会、さらには人々の意識に応じて変化するものであること、②法や制度に関する歴史的な知識の取得、を身につけてもらいたいと思います。</p>					
履修条件	日本史に興味のある学生、積極的に講義に参加する学生の受講を希望します。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 霞信彦ほか『日本法制史講義ノート』（慶應義塾大学出版会、2011年）</p> <p>【参考書】 浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』（青林書院、2010） 霞信彦・漆原徹・浜野潔『日本法制史 史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）</p>					
授業回数	内容					
1	法とは何か —変化する法—					
2	法のはじまり —「のり」と祝詞—					
3	神判とツミ					
4	冠位十二階					
5	憲法十七条を読む					
6	大化「改新詔」の信ぴょう性について					
7	中国法の継受					
8	養老律令					
9	戸籍・計帳					
10	平安末期から中世にかけての土地制度					
11	武家政権の誕生と武家法					
12	御成敗式目					
13	御成敗式目を読む					
14	鎌倉時代の裁判					
15	建武式目					
評価方法	成績評価：小テストおよび授業内レポート【20%】・期末試験【80%】 そのほか、抜き打ちで出席確認をおこない、欠席者は1回1点の減点とします。					
評価基準	上記内容について、よく理解し適切に表現できた者には「A」評価とします。理解や表現に不適切な点のある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。					
その他	履修者は、高校卒業レベルの古文・漢文および日本史の知識を有することがのぞましいですが、授業では現代語訳や背景となる歴史的事実に関する解説も適宜おこないます。					